

良寛と角栄

池田 隆

良寛逸話出雲崎油絵館の玄関扉を開けると、「そのまま上がって来て下さい」の声。館長のS氏が迎えてくれる。今日は休館日であるが、我々三人のために開けてくれていた。

S氏は定年後に興味の油絵で良寛が残した言葉や教えを広く人々へ、とくに小中学生に伝えたいと沢山の逸話の場面を描き、解説文を添えて展示説明しているという。一つ一つの絵を見ながら懇切な解説を聴いていると、子供好きで書や詩文に長けた昔の庶民的なお坊さんといった程度の私の認識が改まっていく。仏教のみならず国文、老荘や儒学の学識も高く、自由闊達、清貧知足、生命尊重、庶民目線、責任感が強く現実的、裏表なしの人物と知る。まさにSDGsの実行者である。館を出る時にはすっかり良寛シンパになっていた。

翌日は良寛記念館を見学し、出雲崎町と隣接する刈羽村と柏崎市へ車で向う。田中角栄の地元で彼の記念館も建つ。権謀術数と強引な金権政治で日本列島改造を試みた大政治家だった。百六十年を隔てているが、同じ風土・地域から全く対照的な人物が現れたものだ。五合草庵と目白御殿が両者の違いを象徴している。

角栄主導で制定された電源三法によって建設された世界最大の原子力発電所の周囲を車は迂回していく。だが松林に囲まれ内の様子は分らない。もし対岸の北朝鮮やロシアからミサイル攻撃を受けたらどうなるか。フクシマの原発被害をはるかに超えるだろう。ロシアによるウクライナの原発攻撃を思うと絵空事ではない。この発電所のタービン設計を担った元技術者として一刻も早い撤去廃止を願いながら通り過ぎた。数日後の日曜朝五時からテレビ番組「こころの時代」では、ホームレス支援を行う若い夫妻を紹介していた。命の大切さに差はないとの信念で相手の立場に立って活動している。良寛の教えの体現者たちである。つづくニュース番組では円安、株価下落に大騒ぎ。お金に支配される社会一般の風潮が角栄時代よりさらに強まっている。

あーあ！